

卒業論文のための社会調査実施に関するガイドライン

2004年4月7日 Ver.2.0
金沢大学文学部社会学研究室

社会調査は、社会認識を新たにすることで社会を理解し、社会理論を鍛え上げることを可能にする社会学研究の重要な一手法である。社会学研究室では、卒業論文執筆を通じた学問的研鑽において学生自身が社会調査を実施することは有意義であると考えている。しかしながら、近年、社会調査をめぐる環境は悪化しており、社会調査を適切に遂行するためには、十分な調査リテラシーの修得、周到な事前の準備、そして実査段階での臨機応変の対応がますます必要となっている。卒業論文のための社会調査は、基本的に学生の自主性と自己責任において行われるべきだが、上のような社会調査を取り巻く状況を鑑み、適切な調査実施を支援するためにガイドラインを設けることとした。

学生諸君が卒業論文のための社会調査を計画する場合、社会調査を取り巻く諸事情をよく理解した上で、このガイドラインに沿って取り組んでもらいたい。

[1] 調査企画書の提出

早期の準備を促し、また教官組織で情報を共有するため、社会調査の実施を予定している学生は、「調査企画書」をグループの担当教官に提出し、教官集団の指導を受けること。

1. 期限： 6月30日

2. 内容：

調査名称

調査実施者名

調査の目的（研究課題）

主な調査項目・分析枠組

調査の対象（具体的に誰に）

対象者選定（サンプリング）の方法

調査の方法／実査の方法

調査スケジュール（調査期間等）

調査の準備状況

[2] 調査実施計画書の提出

調査の適切な遂行と教官組織での情報共有のため、社会調査の実施を予定している学生は、「調査実施計画書」を提出し、教官集団の指導を受けること。

1. 期限： 8月31日

2. 内容： 調査企画書の各項目の確定情報に加え、

予想される対外的問題と対応策（特にインフォームド・コンセントとプライバシー保護に関わる対応）

調査経費の見積

対象者へのフィードバック方法

調査票調査の場合には、依頼状、調査票（案）の現物を添付

[3] 調査実施期間中の連絡

調査実施期間中、学生は定期的に指導教官と連絡を取り、調査の進捗を報告し、安全の確認を行うこと。何らかのトラブルが生じた場合には、すみやかに指導教官に相談すること。また、調査終了後、その旨を指導教官に連絡すること。

[4] インフォームド・コンセントの獲得

社会調査において、調査対象者が当該調査について十分理解した上で調査協力に同意することがきわめて重要である。これがインフォームド・コンセントである。これを獲得できるように十分な工夫を行うこと。例えば、調査対象者は依頼状や調査票の文面から、調査拒否しても差し支えないことを理解できているだろうか。また、この原則から言って、「秘密調査」(調査者の身分を隠したり、偽ったりする調査)は望ましくない。

対象者からの問い合わせに随時対応できるよう、実査期間中の対応窓口を設けること。このために研究室の子機つき FAX 電話を利用することができる。

[5] プライバシーの保護

調査対象者のプライバシーを保護することは調査研究の基本である。このために十分な工夫を行うこと。例えば、調査票・データの管理はプライバシーを保つものとなっているか、調査員にプライバシーの保護について説明したか、対象者リスト・調査原票・データの研究後の処理は適切か、論文の記述において必要な匿名性が保たれているか。

[6] 調査者・調査員の安全

調査にはある水準で身体的情緒的危険が存在するものである。調査実施前に、それらの危険、およびそれらに対応するための自身の能力と意志について、真剣かつ現実的に考慮しておくこと。また調査員を用いる場合、調査者は、安全管理を含めた調査員教育（インストラクション）を十分に行うこと。

例えば、夜間に対象者宅を訪問することが必要となるようなスケジュール設定や、対象者に調査者・調査員の個人電話番号・住所を教えなければならない事態は避けるべきであろう。